

Sun Blade™ X6440 サーバーモジュール ご使用の手引き

本書は、Sun Blade™ X6440 サーバーモジュールハードウェアの設定、サーバーモジュールのサービスプロセッサおよび Integrated Lights Out Manager ソフトウェアの設定作業についての基本的な情報を説明し、Sun Blade X6440 サーバーモジュールの設置時に必要なドキュメントのフローチャートを示します。詳細な設置情報は、『Sun Blade X6440 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-5306)に記載されています。このドキュメントは、次の Sun ドキュメント Web サイトからダウンロードできます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6440>

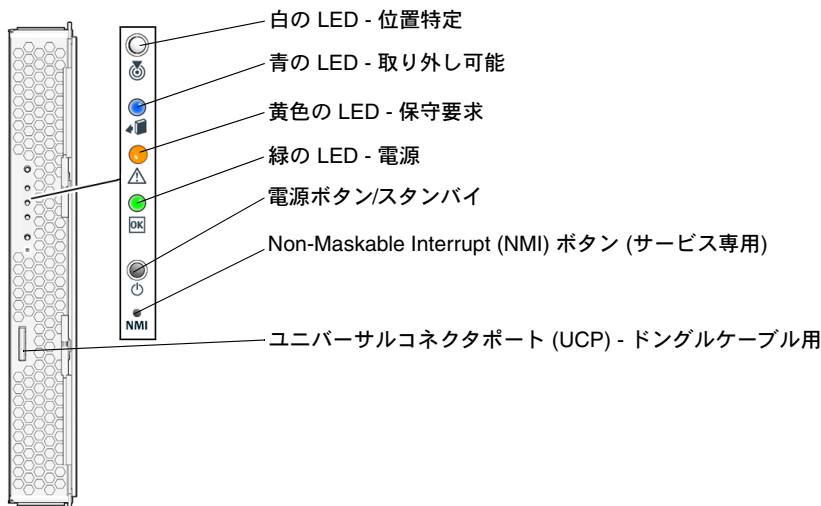
安全とコンプライアンスに関する情報

設置する前に、Sun Blade X6440 サーバーモジュールに関する安全の手引きについては、次のマニュアルを参照してください。

- Important Safety Information for Sun Hardware Systems (Sun ハードウェアシステム安全上の注意) (816-7190): 出荷品一式に入っているハードコピーマニュアル。
- Sun Blade X6440 Server Module Safety and Compliance Manual (Sun Blade X6440 サーバーモジュール安全の手引き) (820-4412): Sun ドキュメント Web サイトからダウンロード可能。

システムの概要

次の図に、Sun Blade X6440 サーバーモジュールの前面パネルを示します。



サーバーモジュールの設置

Blade X6440 サーバーモジュールには、ハードドライブが搭載されていません。代わりに、コンパクトフラッシュ (CF) カードが搭載されています。これを使用して、一定の数のオペレーティングシステムをブートし、サーバーを操作可能な状態にすることができます。

サーバーモジュールをシャーシに挿入する前に、CF カードを取り付けてください。CF カードを挿入したり取り外すには、サーバーの電源を切り、シャーシから取り外してください。

▼ コンパクトフラッシュカードを取り付ける

1. サーバーモジュールを平らな場所に置き、サービスモジュールの背面が手前にくるようにします。
CF カードはサーバーのカバーを取り外さなくても抜き差しできますが、必要に応じて上部カバーを取り外します。
2. コンパクトフラッシュスロットに CF カードを挿入し、所定の位置にロックされるまで押し込みます。

▼ サーバーモジュールを挿入する

1. シャーシの挿入先サーバーモジュールスロットを確認します。
2. (オプション) 必要に応じて、スロットフィラーパネルを取り外します。
レバーを引き出して、フィラーパネルを取り出します。
3. 取り外しレバーが右側になり、外側に引き出せるように、サーバーモジュールを縦にします。
4. ストッパに当たるまで、サーバーモジュールをスロットに押し込みます。
5. 上の方の取り外しレバーがカチッとハマるまで、下方に回します。
サーバーモジュールとシャーシが面一にそろえられ、取り外しレバーがロックされます。

サーバーモジュールの電源投入と電源切断

この時点では、サービスプロセッサ (SP) の初期設定を実行できるように、サーバーモジュールにスタンバイ電源のみを供給する必要があります。このセクションでは、参考までに主電源モードをオンにする手順とシャットダウンする手順についても説明します。

▼ サービスプロセッサの初期設定のためのスタンバイ電源供給

この手順で、初期設定の前にサービスプロセッサ (SP) にスタンバイ電源を供給します。

1. 接地 AC 電源コードを、シャーシ背面にある AC 電源コネクタと接地 AC 電源コンセントに差し込みます。
詳細は、使用しているシャーシのドキュメントを参照してください。
スタンバイ電源モードでは、青の (取り外し可能) LED が点灯し、SP が機能していることを示します。
2. 「[サーバーソフトウェアのセットアップ](#)」の説明に従って、ソフトウェアの初期セットアップ作業に進みます。
この時点では、スタンバイ電源がサービスプロセッサと電源ファンにのみ供給されます。プラットフォームのオペレーティングシステムをインストールする準備が整うまで、主電源をサーバーのほかの部分には入れないでください。

▼ すべてのサーバーコンポーネントの主電源を投入する

- サーバーモジュールの前面パネルにある電源ボタンを、ペンなどの先のとがったもので押します。サーバーモジュールの電源が入り、ブートします。前面パネルの緑の LED が点灯します。

▼ 主電源モードからサーバーの電源をオフにする

- サーバーモジュールの前面パネルにある電源ボタンを、ペンなどの先の尖ったもので押し、青の (取り外し可能) LED が点灯するまで押し続けます。サーバーモジュールがスタンバイモードになり、シャーシから取り出せるようになります。



注意 – サーバーモジュールの電源を完全に切断するには、シャーシの背面パネルから AC 電源コードを取り外す必要があります。これにより、シャーシにあるすべてのブレードの電源が切断されます。

サーバーソフトウェアのセットアップ

このセクションでは、サーバーモジュールのサービスプロセッサおよび ILOM (Integrated Lights Out Manager) のソフトウェアの初期セットアップの作業について説明します。ILOM を使用して Sun Blade X6440 サーバーモジュールを設定および管理する手順の詳細については、『Sun Blade X6440 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-5306) および『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。

ILOM サービスプロセッサへの接続

ILOM SP に接続して、初期セットアップと設定を行う方法は 3 つあります。次の手順のいずれかを選択します。

- 「[シャーシのシリアルコネクタを使用した ILOM への接続](#)」
- 「[ドングルケーブルによる ILOM への接続](#)」
- 「[Ethernet ポートによる ILOM への接続](#)」

シャーシのシリアルコネクタを使用した ILOM への接続

次の手順に従って、シャーシ管理モジュール (CMM) ILOM へのシリアル接続が確立されます。シャーシ管理モジュール (CMM) ILOM からサーバーモジュール ILOM に接続するためのコマンドが送信されます。

▼ シャーシのシリアルコネクタを使用して ILOM に接続する

1. 使用している端末、ラップトップ、または端末サーバーが稼働していることを確認します。
2. 端末デバイスまたは端末エミュレーションソフトウェアを次のように設定します。
 - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー (デフォルト、57600 までの標準レートのいずれにも設定可)
 - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
3. シャーシのシリアルポートから端末デバイスにシリアルケーブルを接続します。シリアルポートの場所は、シャーシの説明書で確認してください。
4. 端末デバイスで Enter キーを押して、端末デバイスと CMM ILOM との接続を確立します。
5. デフォルトのユーザー名 **root** とデフォルトのパスワード **changeme** を使用して、ILOM CLI にログインします。
6. 次のコマンドを入力してサーバーモジュール ILOM に移動します。

```
-> cd /CH/BLn/SP/cli
```

n には、サーバーモジュールの番号 0 ~ 9 に対応した数字 (0 ~ 9) を入力します。

7. **start** コマンドを入力します。
8. 継続するには「**y**」、キャンセルするには「**n**」と入力します。
「**y**」と入力した場合は、サーバーモジュール ILOM のパスワードを入力するプロンプトが表示されます。
9. デフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。
サーバーモジュール ILOM のプロンプトが表示されます。これでサーバーモジュールに接続されました。
10. 完了したら、「**exit**」と入力します。
サーバーモジュール ILOM が終了し、CMM CLI のプロンプトが表示されます。

ドングルケーブルによる ILOM への接続

次の手順に従って、ドングルケーブルを使用して端末を直接サーバーモジュール ILOM に接続します。

▼ ドングルケーブルを使用して ILOM に接続する

1. ドングルケーブルをサーバーモジュールに接続します。
2. 端末または端末エミュレータをドングルケーブルの RJ-45 コネクタに接続します。
ILOM のログインプロンプトが表示されます。
3. プロンプトが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。サーバーモジュール ILOM のプロンプトが表示されます。
4. ILOM を終了するには、「**exit**」と入力します。

Ethernet ポートによる ILOM への接続

次の手順に従って、Ethernet ポートを使用して ILOM への接続を確立します。シャーシの Ethernet ポートは、CLI と Web インタフェースの両方の接続方法に対応しています。

ILOM には、RJ-45 コネクタ用 NET MGT 0 Ethernet ポートまたは対応する Network Express Module (NEM) ポートのどちらかを使用して接続できます。

Ethernet を使用して接続するには、ILOM の IP アドレスが必要です。「[ILOM IP アドレスの設定](#)」を参照してください。

▼ ILOM CLI にログインおよびログアウトする

1. SSH クライアントを起動します。
2. ILOM CLI にログインするには、次のように入力します。

```
$ ssh root@ipaddress
```

ipaddress はサーバー SP の IP アドレスです。
3. デフォルトのユーザー名 **root** とデフォルトのパスワード **changeme** を使用して、CLI にログインします。
4. ILOM を終了するには、「**exit**」と入力します。

▼ ILOM Web インタフェースにログインおよびログアウトする

1. Web ブラウザに ILOM サーバードロプロセッサの IP アドレスを入力します。
ILOM のログイン画面が表示されます。
2. デフォルトのユーザー名 **root**、デフォルトのパスワード **changeme** を入力します。
3. 「Log In (ログイン)」をクリックします。
Web インタフェースが表示されます。

4. Web インタフェースからログアウトするには、Web インタフェースの右上にある「Log Out (ログアウト)」ボタンをクリックします。

ILOM ログアウト画面が表示されます。

ILOM IP アドレスの設定

ILOM IP アドレスを表示および設定するには、次の手順に従います。BIOS セットアップユーティリティ、DHCP を使用して、または CLI を使用して手動により、ILOM IP アドレスを設定できます。次の手順のいずれかを選択します。

▼ ILOM IP アドレスを表示する

1. 「[ILOM サービスプロセッサへの接続](#)」の説明に従って、ILOM にログインします。
Ethernet の SSH 接続を使用するには、IP アドレスが必要です。
2. root ディレクトリから、CLI コマンド `show /SP/network` を入力して、すべての IP アドレス関連情報を表示します。IP アドレスのみを表示する場合は、「`show /SP/network/ipaddress`」と入力します。

▼ BIOS セットアップユーティリティを使用して ILOM IP アドレスを設定する

1. DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるように設定されていること、および対応する NEM ポートまたは RJ-45 NET MGT Ethernet ポートに接続されていることを確認します。
2. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
3. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「LAN Configuration (LAN 構成)」の順に選択します。
4. 「LAN Configuration (LAN 構成)」画面で、「IP Assignment (IP 割り当て)」の下の「DHCP」または「Static (静的)」を選択します。
 - 「Static (静的)」を選択した場合は、ページ末尾で IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを入力します。「Commit (コミット)」を選択して変更を保存します。以上で完了です。
 - 「DHCP」を選択した場合は、DHCP サーバーにより IP アドレスがサーバーモジュール ILOM に割り当てられます。手順 5 に進みます。
5. DHCP がサーバーモジュール ILOM に割り当てた IP アドレスを表示するには、「[ILOM IP アドレスを表示する](#)」の手順に従います。

▼ DHCP を使用して ILOM アドレスを設定する

1. DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるよう設定されていることを確認します。
2. 次のいずれかの場所からサーバーモジュール ILOM の MAC アドレスを確認します。
 - サーバーモジュール経由の CLI コマンド。サーバーモジュールのシリアルポートに端末デバイスを接続し、ILOM にログインして、CLI コマンド `show /SP/network` を入力すると、現在の MAC アドレスが表示されます。
 - CMM 経由の CLI コマンド。CMM のシリアルポートに端末デバイスを接続し、CMM ILOM にログインして、CLI コマンド `show /CH/BLn/SP/network` を入力すると、現在の MAC アドレスが表示されます。
 - お客様情報シート。このドキュメントはサーバーモジュールに付属しています。
 - システムの BIOS セットアップ画面。電源投入時に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 設定)」→「LAN Configuration (LAN 構成)」→「MAC Address (MAC アドレス)」を選択します。

3. Ethernet ケーブルをサーバーモジュールに対応する Network Express Module (NEM) ポートに接続します。NEM ポートの場所は、シャーシの説明書で確認してください。
4. シャーシのシリアルコネクタまたは Ethernet ポートを使用して、ILOM にログインします。デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
5. **reset** コマンドを入力します。
-> **reset /SP**
DHCP は、サーバーモジュールの再起動時に ILOM の IP アドレスを自動的に割り当てます。
6. DHCP がサーバーモジュール ILOM に割り当てた IP アドレスを表示するには、「[ILOM IP アドレスを表示する](#)」の順に従います。

▼ CLI を使用して ILOM IP アドレスを設定する

1. 「[ILOM サービスプロセッサへの接続](#)」のいずれかの方法によって、サーバーモジュール ILOM に接続します。
2. IP アドレスを表示するには、「**show /SP/network/ipaddress**」と入力します。
3. /SP/network に移動するには、次のように入力します。
-> **cd /SP/network**
4. 次の例の該当する箇所に自分のアドレスを使用して、次のコマンドを入力します。
 - 静的 Ethernet 接続を設定するには、次のように入力します。
-> **cd /SP/network**
-> **set pendingipaddress=129.144.82.26**
-> **set pendingipnetmask=255.255.255.0**
-> **set pendingipgateway=129.144.82.254**
-> **set pendingipdiscovery=static**
-> **set commitpending=true**
 - 動的 Ethernet 接続を設定するには、次のように入力します。
-> **cd /SP/network**
-> **set pendingipdiscovery=dhcp**
-> **set commitpending=true**
5. ILOM からログアウトするには、「**exit**」と入力します。

プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ

サーバーモジュール ILOM のネットワーク設定を行ったあと、プリインストールされているオペレーティングシステムを設定したり、サポートされている Solaris、Linux、または Windows プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバをインストールできます。詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- サーバーにオペレーティングシステムがプリインストールされている場合、OS を設定する手順については、『Sun Blade X6440 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-5306)を参照してください。
- サポートされている Solaris、Windows、または Linux OS および必要なドライバのインストールの詳細は、『Sun Blade X6440 Server Module Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュールオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-3962) または 『Sun Blade X6440 Server Module Windows Operating System Installation Guide (Sun Blade X6440 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド)』(820-3963)を参照してください。

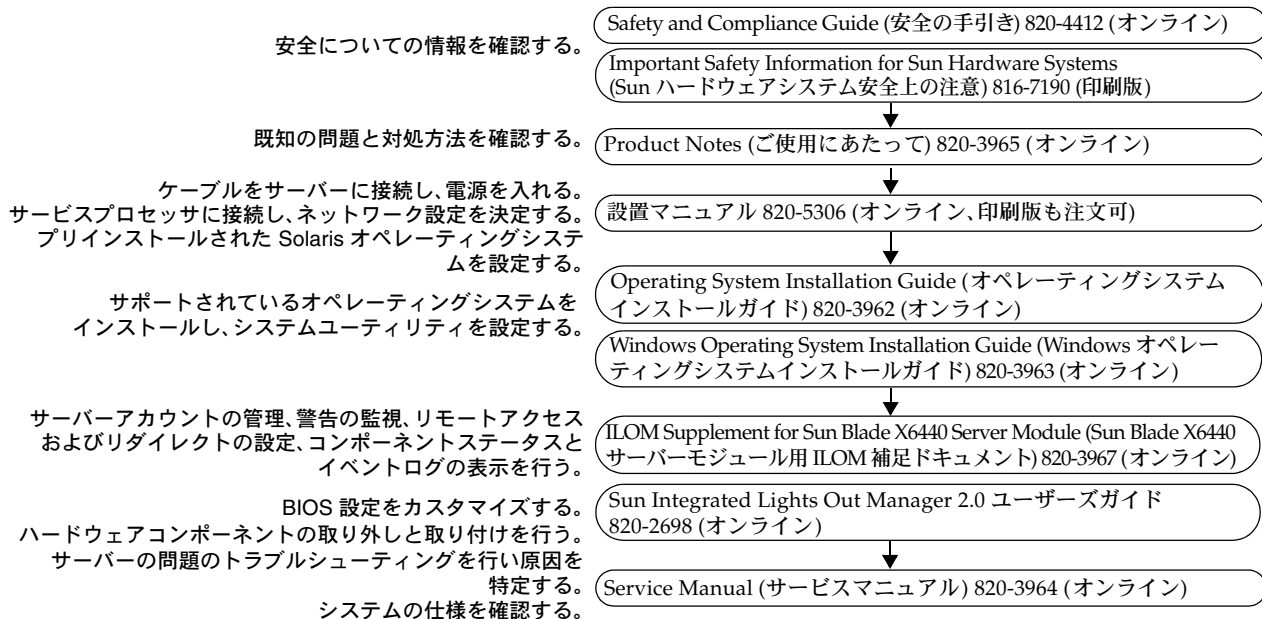
Sun Blade X6440 サーバーモジュールドキュメントへのアクセス

下のフローチャートは、新しいシステムを設置するときに行う可能性があるタスクの順に、ドキュメントを一覧で示しています。左側の作業を確認し、右側の対応するドキュメントを参照してください。Sun のドキュメント Web サイトでは、すべてのドキュメントの最新バージョンを公開しています。この Web サイトのアドレスは次のとおりです。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6440>

注 – 印刷版別注可と明記されているドキュメントは、システムに自動的に添付されません。これらのドキュメントは、システムの発注時にオプションとして指定する必要があります。これらのオンライン版は、製品ドキュメント Web サイトからダウンロードできます。

作業の内容 参照するドキュメント



Sun オンライン

最新のドキュメントの参照

最新バージョンのドキュメントを参照するには、次の Web サイトで Sun Blade X6440 サーバーモジュールを検索してください。

<http://docs.sun.com/>

この製品ドキュメント Web サイトでは、最新情報を公開しています。製品情報の重要な更新については、『Product Notes (ご使用にあたって)』または『Release Notes (リリースノート)』を参照してください。特定のドキュメントがお手持ちのドキュメントよりも新しいかどうかを確認するには、該当するドキュメントの部品番号の下二桁の数字を参照してください (たとえば、XXX-XXXX-12 は XXX-XXXX-10 よりも新しいバージョンです)。

一部のドキュメントについては、<http://docs.sun.com> に翻訳版が用意されています。

ドロップダウンリストで言語を選択し、Sun Blade X6440 サーバーモジュールのドキュメントに移動します。Sun Blade X6440 サーバーモジュールのドキュメントについては、簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、日本語、韓国語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun テクニカルサポートの連絡先

この製品について技術的な質問があり本書で回答されていない場合は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade X6440 サーバーモジュールご使用の手引き』、部品番号 820-5336-10

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Use is subject to license terms. 本製品に含まれるサードパーティソフトウェア (フォントに関するテクノロジーを含む) は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Sun Blade、Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. Tous droits réservés. Distribué par des licences qui en restreignent l'utilisation. Tout logiciel tiers, sa technologie relative aux polices de caractères comprise, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun. Des parties de ce produit peuvent dériver des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Sun Blade, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays. Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays.



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com